

基盤教育科目(全学・学部共通の科目)

モジュール	科目名	配当年次		単位数又は時間数		実務経験に基づく教育内容や教授法
				必修	選択	
就職基礎モジュール	就職活動スキルⅠ	2	前期	1		包括連携を締結している長崎県中小企業家同友会より会社経営者をゲストスピーカーとして招き、地域社会が求める人材像について、ディスカッション等を通して共有する。
	就職活動スキルⅡ	2	後期	1		長崎労働局をはじめとする労働行政担当者、起業家等を講師として、若者を取り巻く地域の労働市場の現状と課題、会社経営の実際について、実際の就職活動の前提となる知識を学ぶ。
	就職活動スキルⅢ	3	前期	1		就活サイト運営専門家を講師として、業界・業種研究を様々なツールを活用して、演習形式で学ぶ。
	就職活動スキルⅣ	3	後期	1		人材マッチング企業や就職活動に関連する業界から講師を招き、就職試験対策を行う。
ICTスキルモジュール	ICTスキルⅠA	1	前期	2		WEBサイト制作、PC・ネットワーク管理の実務・起業経験を活かし、実践的なICTスキルや効果的な情報処理論を解説する。
	ICTスキルⅠB	1	後期	1		WEBサイト制作、PC・ネットワーク管理の実務・起業経験を活かし、実務的なシステム(プログラム)作成などの教示する。
	ICTスキルⅡB	2	前期	1		WEBサイト制作、PC・ネットワーク管理の実務・起業経験を活かし、実務的なシステム(プログラム)作成などの教示する。
	ICTスキルⅡB	2	後期	1		WEBサイト制作、PC・ネットワーク管理の実務・起業経験を活かし、実務的なシステム(プログラム)作成などの教示する。
	ICTスキルⅢ	3	前期	1		ウェブサイト制作・起業経験をベースに、情報発信のスキル習得を目的とした、ウェブサイトコンテンツの作成・実習を通して、最新のトレンドを踏まえ、PCだけでなく、様々なITデバイスやSNS等インターネット利用におけるリテラシー向上を図る。
福祉コミュニティ基礎モジュール	福祉コミュニティ総論	1	前期	4		NPOや社会福祉協議会、民間団体等、社会的課題解決に実践的に取り組む様々なアクターをゲストスピーカーに迎え、福祉コミュニティとは何か、その形成と実現に向け、先行事例を示しつつディスカッションを行う。
	コミュニティサービスラーニングⅠA	1	前期	1		この科目は、自分を知り、社会とのつながりを知ることを目指すとして、「福祉・共生」「ビジネス・観光」「多文化理解・国際交流」「大学コミュニティ」「教育・子育て支援」「まちづくり」「職業理解・職業選択・進路決定」の領域・分野における地域活動を通して、学びの動機づけ、地域課題の発見に必要な問題意識・基本的な視点を体験的に学ぶ。また、学び(支え合い)のチームビルディングを行う。学生の学修指導にあたっては、実務経験のある教員、地域住民や行政・企業等との連携による地域課題解決プロジェクトに従事した経験を持つ教員を中心に複数教員がチームを編成し、地域の諸活動における現場従事者との連携のもと進める。
	コミュニティサービスラーニングⅠB	1	後期	1		この科目は、「コミュニティサービスラーニングⅠA」に引き続き、「福祉・共生」「ビジネス・観光」「多文化理解・国際交流」「大学コミュニティ」「教育・子育て支援」「まちづくり」「職業理解・職業選択・進路決定」の領域・分野における地域活動を通して、学びの動機づけ、地域課題の発見に必要な問題意識・基本的な視点を、学び(支え合い)のチームビルディングを体験的に学ぶ。学生の学修指導にあたっては、実務経験のある教員、地域住民や行政・企業等との連携による地域課題解決プロジェクトに従事した経験を持つ教員を中心に複数教員がチームを編成し、地域の諸活動における現場従事者との連携のもと進める。
	コミュニティサービスラーニングⅡ	2	前・後	2		この科目は、キャリア観・職業観の確立と主体的・能動的学習スタイルの定着を目的とし、地域課題の発見に必要な問題意識・基本的な視点を体験的に学ぶとともに、学び(支え合い)のチームマネジメントを修得する。学生の学修指導にあたっては、実務経験のある教員、地域住民や行政・企業等との連携による地域課題解決プロジェクトに従事した経験を持つ教員を中心に複数教員がチームを編成し、地域の諸活動における現場従事者との連携のもと進める。
合計				18		

※実務経験のある教員等の配置状況各欄の定義は、以下の通り。

- ・「専任教員」「非常勤講師」の欄に「○」がある場合、それぞれの授業科目に関連した実務経験を有する担当教員を配置していることを表す。
- ・「ゲストスピーカー」の欄に「○」がある場合、それぞれの授業科目に関連する実績事例報告等のため、実務経験を有する外部の専門家等を1回又は複数回招聘する科目で
- ・「その他」の欄に「○」がある場合、当該授業科目が、実習等、学外の実践現場で行われることを現す。

社会福祉学科 専門教育科目

モジュール	科目名	配当年次		単位数又は時間数		実務経験に基づく教育内容や教授法
				必修	選択	
コアモジュール	コミュニティサービスラーニングⅢ	3	前・後		2	専門教育科目で学んだ専門的知識・技術を実社会で実践することに重点を置いた「発展レベル」のプログラム。学生の主体的な地域活動をはじめ、「専門演習Ⅰ」担当教員の研究フィールドでの活動やプロジェクト学習のほか、インターンシップ・プログラム、1・2年次のCSLプログラムを更に発展させた内容のプログラムを実施する。学生の学修指導にあたっては、実務経験のある教員、地域住民や行政・企業等との連携による地域課題解決プロジェクトに従事した経験を持つ教員を中心に複数教員がチームを編成し、地域の諸活動における現場従事者との連携のもと進める。
専門基礎科目	臨床心理学	2	後期		2	産業カウンセラー、スクールカウンセラーとしての豊富な実務経験を有するカウンセラーを講師に迎え、青少年の発達障害・中高年の心の病等について解説する。
	介護概論	2	後期		2	医療・福祉現場で働く現役専門家を講師に迎え、デイサービス等の、介護技術の実際を受講者がイメージできる講義を通して、介護の専門技術・理論・原理を解説する。
	介護技術演習	3	前期		1	医療・福祉現場で働く現役専門家を講師に迎え、デイサービス等の、介護技術の実際を受講者がイメージできる演習を通して、介護の専門技術・理論・原理を解説する。
	発達と老化	3	後期		2	様々な医療・福祉の現場で豊富な経験を有する現役の専門家を講師に迎え、人の発達の経過や老人の特性、終末期ケアなどの基本的な知識と老化に関する観察など実践的な教育を行う。
福祉の基本モジュール	医学概論	1	後期		2	医師また看護師の資格・実務経験を有する専門家を講師に迎え、社会福祉士として必要な医療的な知識を解説する。また、実技も入れながら、予防医学など実践的な教育を実施する。
	社会保障論Ⅰ	2	前期		2	福祉実践現場の具体的経験を活かし、社会保障の行政サービスと社会課題のリアルな実践的な視点を複合的に学ぶ。
	社会保障論Ⅱ	2	後期		2	福祉実践現場の具体的経験を活かし、社会保障の行政サービスと社会課題のリアルな実践的な視点を複合的に学ぶ。
	保健医療サービス	3	前期		2	行政機関、医療機関、福祉機関でソーシャルワーカーの経験のある教員が実際のケース等を用いて指導を行う。保健所の保健師をゲストスピーカーに招き、業務や職種等について実践を交えて学ぶ。
	権利擁護と成年後見制度	3	前期		2	社会福祉士及び精神保健福祉士の資格を活用し児童・高齢・障害の生活支援及び地域福祉の推進に携わってきた。社会福祉士として成年後見業務を行ってきた経験を活かし事例を用いて教育を実施する。
	福祉行財政と福祉計画	3	後期		2	長崎市地域福祉計画の策定手順や地域の実践経験のフィールドスタディによる地域福祉の計画策定手法など学ぶ。
	公的扶助論	3	後期		2	社会福祉士及び精神保健福祉士の資格を活用し児童・高齢・障害の生活支援及び地域福祉の推進に携わってきた。社会福祉士として公的扶助に関する経験を活かし事例を用いて教育を実施する。
社会福祉Ⅰモジュール	社会福祉援助技術論Ⅰ	2	前期		4	行政機関、医療機関、福祉機関でソーシャルワーカーの経験のある教員が実際のケース等を用いて指導を行う。保健所の保健師をゲストスピーカーに招き、業務や職種等について講義をして頂く。
	社会福祉援助技術論Ⅱ	2	後期		4	行政機関、医療機関、福祉機関でソーシャルワーカーの経験のある教員が実際のケース等を用いて指導を行う。
社会福祉Ⅲモジュール	福祉運営管理	3	前期		2	経営学をベースに福祉に関する法律や福祉サービス特有の経営、最新の福祉政策について講義を行う。
社会福祉演習モジュール	相談援助演習Ⅴ	4	前期		1	行政機関、医療機関、福祉機関でソーシャルワーカーの経験のある教員が実際のケース等を用いて指導を行う。

精神保健福祉 モジュール	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2	前期	2	精神保健福祉士として実際の現場で働くPSWをゲストスピーカーとして招聘し、実践的な学びを深める。精神科アウトリーチの実践プログラムであるACT(Assertive Community Tratement)について、教員の国外での経験をもとに、より具体的に学ぶ。
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	2	前期	2	実際に精神科の現場で行われている精神科リハビリテーションプログラムをグループワークを通して体験する。実際の現場で働く精神保健福祉士をゲストスピーカーとして招聘し、実践的な学びを深める。
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	2	後期	2	精神科の現場で実施されているSSTや心理教育などのプログラムを実際に体験する。実際の現場で働く精神保健福祉士をゲストスピーカーとして招聘し、実践的な学びを深める。精神保健福祉士とともに現場で働く他職種(看護師、作業療法士など)をゲストスピーカーとして招聘し、チーム医療について理解する。
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	3	前期	2	精神科病院で精神障害者やその家族への支援に従事した経験から、現実的な援助のあり方や事例について具体的に解説する。
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	3	後期	2	精神科病院で精神障害者やその家族への支援に従事した経験から、現実的な援助のあり方や事例について具体的に解説する。
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	2	前期	2	精神保健福祉士として勤務経験を有する者が、精神障害者や家族への支援経験を活かして、制度やサービスの活用のあり方や今日的課題等について講義を行う。
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	2	後期	2	精神保健福祉士として勤務経験を有する者が、精神障害者や家族への支援経験を活かして、制度やサービスの活用のあり方や今日的課題等について講義を行う。
	精神疾患とその治療Ⅰ	2	前期	2	日常臨床経験および、臨床医として有する知識にもとづいて、様々な精神疾患に関する診断・症状・治療法などについて理解し、現場における実践的なポイントについて講義する。
	精神疾患とその治療Ⅱ	2	後期	2	日常臨床経験および、臨床医として有する知識にもとづいて、様々な精神疾患に関する診断・症状・治療法などについて理解し、現場における実践的なポイントについて講義する。
	精神保健の課題と支援Ⅰ	3	前期	2	医療、教育、産業分野でのカウンセリングや予防教育の実務経験から、各分野におけるメンタルヘルスの現状と課題について実践を踏まえた解説を行う。
	精神保健の課題と支援Ⅱ	3	後期	2	医療、教育、産業分野でのカウンセリングや予防教育の実務経験から、各分野におけるメンタルヘルスの現状と課題について実践を踏まえた解説を行う。
精神保健福祉演 習モジュール	精神保健福祉援助演習Ⅱ-I	4	前期	1	精神保健福祉士として勤務経験を有する教員の指導の下、ロールプレイ等の実技指導やグループワークを通じて対人援助の方法について実際に学ぶ。
	精神保健福祉援助演習Ⅱ-II	4	後期	1	実際の現場での事例等を用いて、ソーシャルワークのプロセスに沿って支援計画を作成する。必要に応じて現場の精神保健福祉士を招聘し、支援内容等についてディスカッションする機会を設ける。

精神保健福祉実習モジュール	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	後期	1	現場の様々な形態の機関で働く精神保健福祉士をゲストスピーカーとして招聘し、学びを深める。
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	前期	1	精神保健福祉士として勤務経験を有する教員の指導の下、実習先となる医療機関や障害福祉サービス事業所の現状や課題、実務に即した精神保健福祉士の役割や機能について講義を行う。
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4	後期	1	精神保健福祉士として勤務経験を有する教員の指導の下、実習先となる医療機関や障害福祉サービス事業所の現状や課題、実務に即した精神保健福祉士の役割や機能について講義を行う。
	精神保健福祉援助実習	4	前期	4	精神保健福祉士として必要な価値・知識・技術を身につけるために、病院及び障害福祉サービス事業所等の臨床現場において、現場経験の有る実習指導者の指導の下、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションの視点と方法等について实际的に学ぶ。
学科関連科目	教師論	1	後期	2	小中高の教員歴をもつ教員により、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について豊富な実践を交えて講義する。
	教育相談・カウンセリング	3	後期	2	教育現場における不登校・いじめなどに関して学校の取り組みの現状、スクールカウンセラーの関与の実際を紹介する。
合計				69	

※実務経験のある教員等の配置状況各欄の定義は、以下の通り。

・「専任教員」「非常勤講師」の欄に「○」がある場合、それぞれの授業科目に関連した実務経験を有する担当教員を配置していることを表す。

・「ゲストスピーカー」の欄に「○」がある場合、それぞれの授業科目に関連する実績事例報告等のため、実務経験を有する外部の専門家等を1回又は複数回招聘する科目で

・「その他」の欄に「○」がある場合、当該授業科目が、実習等、学外の実践現場で行われることを現す。

経済政策学科 専門教育科目

モジュール	科目名	配当年次		単位数又は		実務経験に基づく教育内容や教授法
				必修	選択	
コアモジュール	コミュニケーション演習A	2	前期	1		コーチング、マインドフルネスをはじめ、企業等でのコミュニケーショントレーニングに従事する専門家を講師として、企業の人事課題を踏まえながら、職業人・社会人として必要不可欠なコミュニケーションスキルを演習形式で学ぶ。
	コミュニケーション演習B	2	後期	1		コーチング、マインドフルネスをはじめ、企業等でのコミュニケーショントレーニングに従事する専門家を講師として、企業の人事課題を踏まえながら、職業人・社会人として必要不可欠なコミュニケーションスキルを演習形式で学ぶ。
	コミュニティサービスラーニングⅢ	3	前・後		2	専門教育科目で学んだ専門的知識・技術を実社会で実践することに重点を置いた「発展レベル」のプログラム。学生の主体的な地域活動をはじめ、「専門演習Ⅰ」担当教員の研究フィールドでの活動やプロジェクト学習のほか、インターンシップ・プログラム、1・2年次のCSLプログラムを更に発展させた内容のプログラムを実施する。学生の学修指導にあたっては、実務経験のある教員、地域住民や行政・企業等との連携による地域課題解決プロジェクトに従事した経験を持つ教員を中心に複数教員がチームを編成し、地域の諸活動における現場従事者との連携のもと進める。
地域の主体形成モジュール	地方自治論	3	後期		2	地方創生や地域支援の専門家である議会議員や地域支援業務に従事したゲストスピーカーを招聘し、離島振興や地方自治の歴史と現状、その未来について解説する。
学科関連科目	教師論	1	後期		2	小中高の教員歴をもつ教員により、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について豊富な実践を交えて講義する。
	教育相談・カウンセリング	3	後期		2	教育現場における不登校・いじめなどに関して学校の取組みの現状、スクールカウンセラーの関与の実際を紹介する。
合計					10	

※実務経験のある教員等の配置状況各欄の定義は、以下の通り。

・「専任教員」「非常勤講師」の欄に「○」がある場合、それぞれの授業科目に関連した実務経験を有する担当教員を配置していることを表す。

・「ゲストスピーカー」の欄に「○」がある場合、それぞれの授業科目に関連する実績事例報告等のため、実務経験を有する外部の専門家等を1回又は複数回招聘する科目で

・「その他」の欄に「○」がある場合、当該授業科目が、実習等、学外の実践現場で行われることを現す。

外国語学科 専門教育科目

モジュール	科目名	配当年次		単位数又は		実務経験に基づく教育内容や教授法
				必修	選択	
コアモジュールⅢ	コミュニティサービスラーニングⅢ	3	前・後		2	専門教育科目で学んだ専門的知識・技術を実社会で実践することに重点を置いた「発展レベル」のプログラム。学生の主体的な地域活動をはじめ、「専門演習Ⅰ」担当教員の研究フィールドでの活動やプロジェクト学習のほか、インターンシップ・プログラム、1・2年次のCSLプログラムを更に発展させた内容のプログラムを実施する。学生の学修指導にあたっては、実務経験のある教員、地域住民や行政・企業等との連携による地域課題解決プロジェクトに従事した経験を持つ教員を中心に複数教員がチームを編成し、地域の諸活動における現場従事者との連携のもと進める。
英語教育モジュール	英語科教育法Ⅰ	3	前期		2	英会話講師としての実務経験に基づき、英語指導方法などを実践的に教授する
	英語科教育法Ⅱ	3	前期		2	英会話講師としての実務経験に基づき、英語指導方法などを実践的に教授する
	英語科教育法Ⅲ	3	後期		2	英会話講師としての実務経験に基づき、英語指導方法などを実践的に教授する
	英語科教育法Ⅳ	3	後期		2	英会話講師としての実務経験に基づき、英語指導方法などを実践的に教授する
日本語教師モジュール	日本語教育論	2	前期		2	国内外での日本語教育経験を有する専門家が日本語教育の基礎的知識を日本語教育の実践を交えながら教授する。
	日本語教授法	2	後期		2	国内外での日本語教育経験を有する専門家が日本語の教授法について実践を交えて講義する。
	日本語教育実習	3	前期		2	外国人留学生を対象とした日本語教育実習を行う。
学科関連科目	教師論	1	後期		2	小中高の教員歴をもつ教員により、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について豊富な実践を交えて講義する。
	教育心理学	3	後期		2	教育現場における不登校・いじめなどに関して学校の取り組みの現状、スクールカウンセラーの関与の実際を紹介する。
合計					20	

※実務経験のある教員等の配置状況各欄の定義は、以下の通り。

・「専任教員」「非常勤講師」の欄に「○」がある場合、それぞれの授業科目に関連した実務経験を有する担当教員を配置していることを表す。

・「ゲストスピーカー」の欄に「○」がある場合、それぞれの授業科目に関連する実績事例報告等のため、実務経験を有する外部の専門家等を1回又は複数回招聘する科目で

・「その他」の欄に「○」がある場合、当該授業科目が、実習等、学外の実践現場で行われることを現す。